

# 越境

～文学・美術・文化財～

日時：2007年7月13日(金) / 15:30～18:30

場所：東京大学法文2号館2大教室(入場無料、事前申込み不要)

「越境」を口にする時、国境を越えることと、学問・芸術の諸分野間の境界を越えることのふたつの行為を漠然と思いつけることが多いように思います。しかしながら、芸術の分野において「何が何を越えるのか」を改めて問うならば、境界線は国家間に限らず、生死・性・言語・宗教・身分・階級・民族・業界・市場など多様な場所に引かれており、また、それらを超越するものも、人・言葉・イメージ・物体にととまらず、理念・思想・政策・制度へと広がります。

このフォーラムでは、文学・美術・文化財の「越境」の諸相を個別に論じつつ、「越境」の現場においては、芸術がどのように出現するのかを考え、また、戦争によって移動を余儀なくされた芸術家(その産物としての亡命文学)ばかりでなく、略奪された美術品という物体を所有することが戦後はどのように政治問題化するか(ひとりナチスの問題ではない)ということまでを視野に入れて考え、議論します。

## — プログラム —

★15:30～15:45 「越境 ～何が何を越えるのか」

木下直之(東京大学)

★15:45～16:35 「亡命文学再論 —〈脱領域〉の知性か、ETか？」

沼野充義(東京大学) / コメント：楯岡求美(神戸大学)

★16:35～17:25 「南を向く日本の近代美術 ～南洋諸島行作家の場合」

滝沢恭司(町田市立国際版画美術館) / コメント：五十殿利治(筑波大学)

★17:40～18:30 「ナチスの略奪美術品の行方」

山盛英司(朝日新聞社) / コメント：木下直之(東京大学)

企画協力：東京大学大学院人文社会系研究科 現代文芸論研究室・文化資源学研究室

< 問合せ先 > 文化資源学研究室：bunka@l.u-tokyo.ac.jp